

県土整備部長表彰

NO.	分野別	受託業者		委託業務名	路河川名 箇所名	発注所属	評価ポイント
		会社名	管理技術者				
1	都市・交通計画	パシフィックコンサルタンツ株式会社 群馬事務所 所長 稲見 浩一	松延 穰	公共事業調整費 敷島エリアグランドデザインに関する マスターデザイン策定業務委託	敷島公園 前橋市敷島町 外地内	都市整備課	世代を超えてさまざまなクリエイターが関わり続けることを見据え、施設デザイン・環境デザイン・サインデザインなどを包括的に体系化し、設計思想を共有する仕組みをまとめたことは県立公園では全国初の取組となる。他に事例がない中で、業務を確実に遂行するため、様々な観点からの提案による技術力の発揮、他分野に渡る体制の構築、民間団体との連携など、多くの人材と技術力を結集し、将来の敷島エリアの可能性を最大限に引き出し、訪れる人々に活力と潤いを提供する場としての役割を果たす敷島独自のマスターデザインを策定した。
2	下水	パシフィックコンサルタンツ株式会社 群馬事務所 所長 稲見 浩一	眞崎 哲二	社会資本整備総合交付金事業（下水） 雨天時浸入水対策計画策定（県央処理区）	利根川上流流域下水道（県央処理区）	下水環境課	流域下水道の雨天時浸入水対策としては、群馬県内初で全国でも先行例が少ない計画策定であるとともに、専門的な知識や経験を要する業務をとりまとめた。流入量と雨量との相関を試行錯誤しながら的確に解析することで浸入水の状況を正確に把握できたことにより、下水道施設の改築方針のほか運転管理上の対策や発生源対策の方針を立案し、雨天時浸入水を削減できる実用的な計画を策定した。また、雨天時浸入水削減には、関連市町村の計画立案と対策実施が重要であることから、県計画を踏まえた市町村計画策定に向けた的確な計画内容の説明や技術的助言ができた。
3	橋梁	株式会社 長大 群馬営業所 所長 高橋 洋介	並木 渉	社会資本整備総合交付金（防災・安全／活力基盤） 白川橋及び道路詳細設計業務委託	前橋（都）3.4.49 敷島公園大師線 2期工区 前橋市龍蔵寺町 外地内	前橋土木事務所	用水、既設橋梁、市道及び住宅等の設計上配慮すべき制約条件が多数ある難易度の高い設計であったが、架橋に支障となる課題を的確に把握し、制約条件に応じた関係機関との協議を慎重に行うことで住民の生活環境への影響を最小限に抑えた設計を行った。また、予備設計における架設及び仮設計画を見直すことで、建設コストの縮減、完成後の維持管理に配慮した設計を行った。さらに、3次元CIMモデルを用いた走行性の確認、施工手順の作成、埋設物との干渉チェックを行うことにより、視覚的に分かり易い資料作成を行った。
4	橋梁	株式会社 パスコ 群馬支店 支店長 濱田 真也	中野 秀直	道路メンテナンス事業（橋梁） 橋梁定期点検業務委託（前橋・渋川土木管内）	一般県道 渋川吉岡線 外 渋川市明保野 地内 外	渋川土木事務所	新技術活用に積極的に取り組み、点検時の安全確保や点検精度の向上に努めた。特に、下路アーチ形式の橋梁点検において、路面規制が最短となる点検体制を採用し、規制に係る費用を最小限に抑えるなど、従来方法の点検においても積極的にコスト縮減に取組んだ。品質向上への取組として、照査技術者による包括的な照査に加え、それ以外の者とのダブルチェックを併用。さらに、自社で専用照査ツールを開発し、初歩的なミスを機械的に排除するなど、高品質な成果を目指し、様々な取組を自主的に行った。また、過去の点検結果と同一視点からの比較を行い、劣化進行度合いや措置緊急度の判定に活用する取組や、損傷事例に係わる文献・論文を活用し、精度高い診断を行った。
5	河川	技研コンサル株式会社 代表取締役社長 嶋田 大和	中嶋 博文	大規模特定河川 護岸詳細設計業務委託（5工区下流外）	一級河川 利根川 佐波郡玉村町大字上福島 外地先	伊勢崎土木事務所	食肉卸売市場が立地した地域での事業であるため、建設業界では馴染みのない「と畜場法」による規制を踏まえ、フードディフェンス（食品防御）に関する検討を行った。衛生上の要求・制約事項が多い中、土木専門知識のない関係者にも理解し易い資料作りに努め、その結果、市場を含む関係機関から事業計画の理解を得ることが出来た。さらに、施工計画では、市場機能を確保しつつ施工可能な計画を策定し、工種毎に色分けを行った施工ステップ図を作成したことで、視覚的にも理解し易い資料の「見える化」で情報共有を図り、最適位置での堤防法線と築堤構造を提案した。
6	下水	株式会社 建設技術研究所 群馬事務所 所長 幸田 圭	吉田 健	社会資本総合整備（防災・安全交付金事業）（下水） ストックマネジメント計画更新業務（処理場・ポンプ場）	利根川上流流域下水道（奥利根処理区） 奥利根水質浄化センター 外 沼田市下川田町 外	下水道総合事務所	各処理区の管理、機械、電気担当者など関係者に広く意見を求めるなど、丁寧に関係者の意見を調整した上で、最適な計画となるよう努め、現場に即した計画の更新を行うことができた。また、ストックマネジメント計画の更新を県内6処理区で同時に実施している中で、当業務受注者が中心的役割を担い、積極的に他の受注者と調整していた。その結果、6処理区全体で計画方針の統一化が図られ、条件設定や考え方が整合した計画を策定することができた。